




MJC-DM2クロージャ 工法書

ご使用前に、この工法書を良くお読みの上、内容を理解してから、ご使用下さい。
お読みになった後も、この工法書は大切に保管してください。

▽ 安全上のご注意 ～安全にご使用いただくために必ずお守りください～

この工法書には、人体への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっております。内容を良くご理解のうえ本文をお読みください。

本クロージャに関する安全上のご注意	
 危険 右記内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が極めて高いことが想定されます。	—
 警告 右記内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> 本クロージャは、落下などの無いように、確実に固定して下さい。 架空での施工時には、部品及び使用工具が落下しないようにご注意ください。
 注意 右記内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性および、物的損害の可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> 刃物などのご使用時には十分に注意してください。 本クロージャの組立には、本製品以外の部品を使用しないでください。 締め付けトルクを規定した作業は、その規定を守って作業をしてください。水の侵入やケーブル及びクロージャの破損の原因となります。 塩害地域では、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。
お願い 右記の内容を見逃して、誤った取り扱いをすると、本製品の性能を発揮出来ない可能性及び、機能停止をまねく可能性が想定されます。	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバの配線は、許容曲げ半径30mm以上をお守りください。 融着作業は、ご使用の融着接続機の取扱説明書をご覧ください。 本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換が必要とする場合がありますので、事前に弊社・営業担当までご相談ください。

▽ 主な構成品一覧

No.	品名	数量	備考
1	本体	1個	吊り金具付き
2	蓋	1個	—
3	ベーストレイ	1枚	本体に組込
4	余長収納トレイ	必要数	本体に組込
5	ドロップ把持具	2個	本体に組込
6	グロメット	2個	本体に組込
7	工法書	1部	—

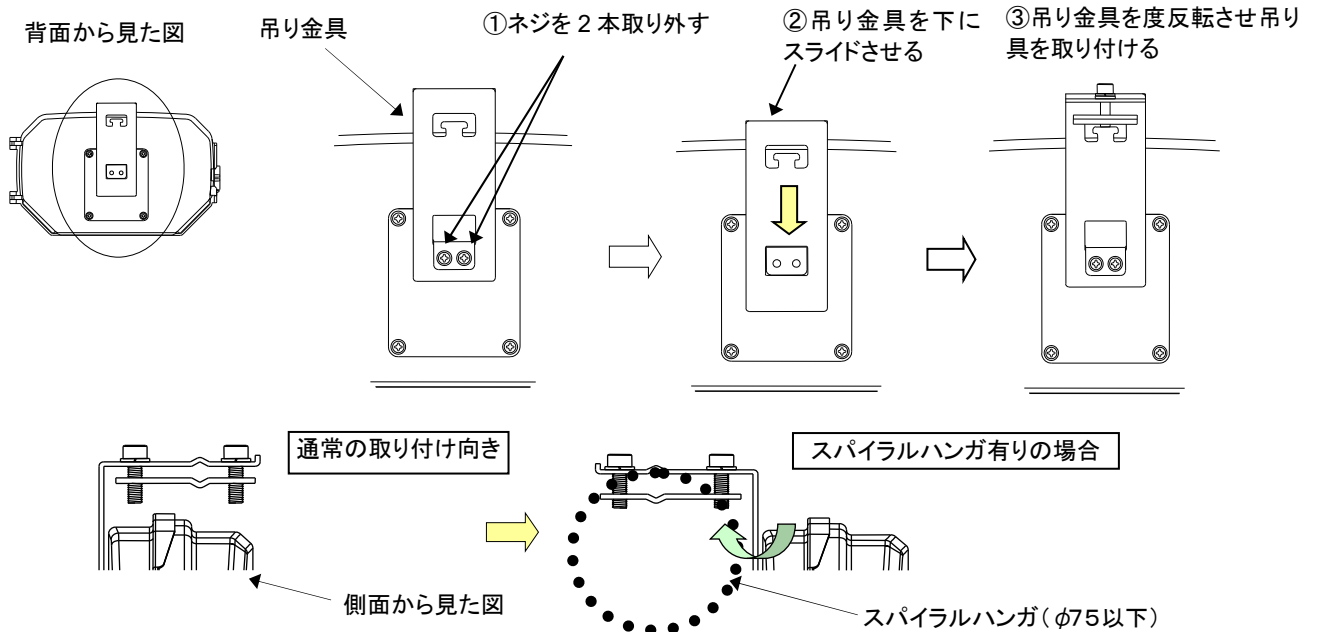
▽ 作業フロー クロージャ種類別必要工程

	作業工程
1. クロージャの設置	(1)吊り金具の準備 (2)押さえ金具の準備 (3)メッセンジャワイヤへの吊り金具取付
2. カバーの開け方	(1)カバーの開け方
3. 余長収納トレイの開閉	(1)余長収納トレイの開閉
4. ドロップケーブルの処理	(1)外被剥ぎ取り・外被処理 (2)ドロップケーブルのクロージャへの取り付け (3)取り付け位置順序
5. 心線接続収納	(1)ベーストレイ (2)単心用・テープ用余長収納トレイ
6. カバー閉じ方	(1)確認事項 (2)カバーの閉じ方

1. クロージャの設置

(1) 吊り金具の準備

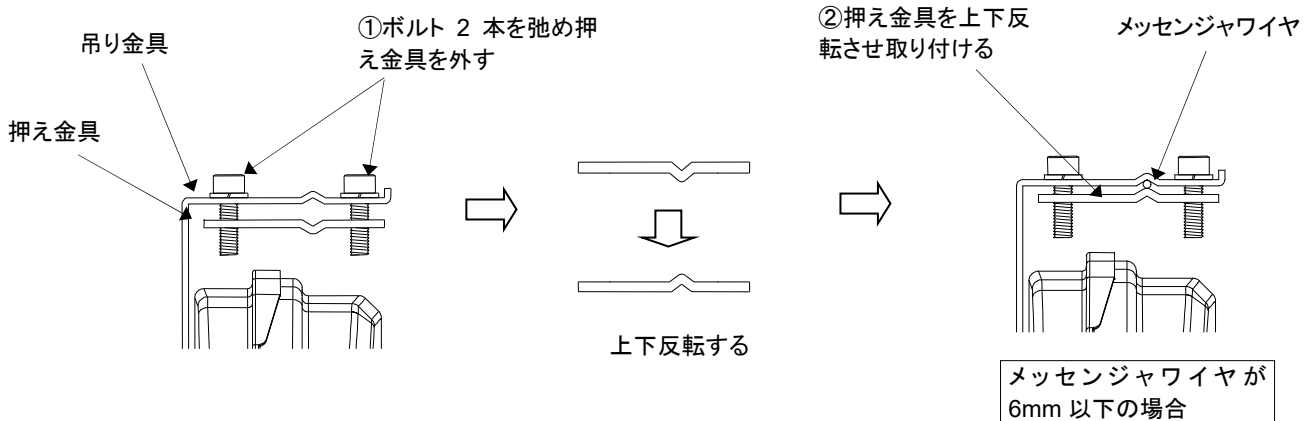
メッセンジャワイヤがスパイラルハンガ付きの場合はクロージャ背面のネジを外し吊り金具の向きを変えて取り付けて下さい。①ネジ 2 本を取り外します②吊り金具を下方向にスライドし金具を取り外します③吊り金具の向きを180度反転(表と裏)させ 外した時の逆の手順で取り付けます。



(2) 押さえ金具の準備

メッセンジャワイヤがφ6mm以下の場合押さえ金具を上下逆向きにして取り付けて下さい。

①吊り金具のボルトを2本を外します。 ②押さえ金具を上下反転させ取り付けます。

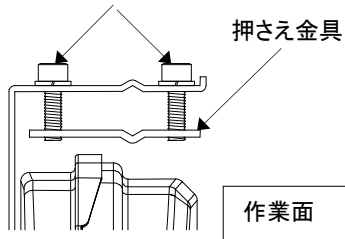


(3) メッセージワイヤへの吊り金具の取り付け

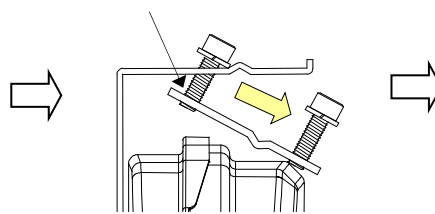
①吊り金具の固定ボルト2本を弛める ②クランプを手前にスライドさせる ③吊り金具をメッセージワイヤに掛ける『く』の字の中心をメッセージワイヤに合わせ固定ボルトの頭を切欠きに掛ける ④固定ボルトを締め付けトルク **7N・m(70kgf・m)** で締め付ける。

※ 固定ボルトはトルクレンチを使用し確実に締め付けてください。

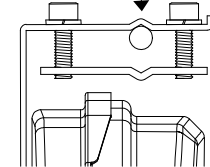
①固定ボルト2本を弛める



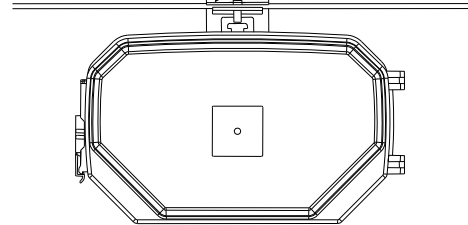
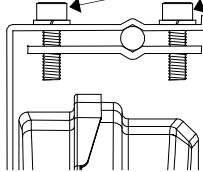
②押さえ金具を手前にスライドさせる



③吊り金具をメッセージワイヤに掛ける『く』の字の中心をメッセージワイヤに合わせ固定ボルトの頭を吊り金具の切欠きに掛ける



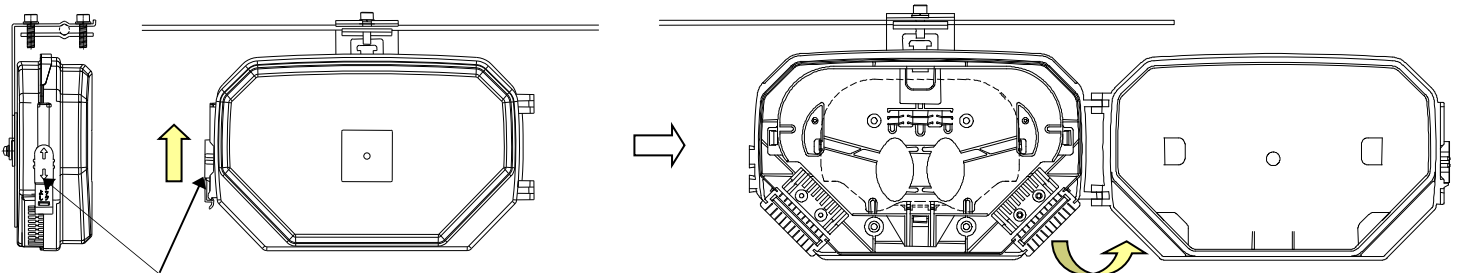
④固定ボルトを締め付けトルク **7N・m(70kgf・m)** で締め付ける



2. カバーの開け方

(1) カバーの開け方

- ・ 本体左の①ロックを上へスライドさせカバーを開けます。

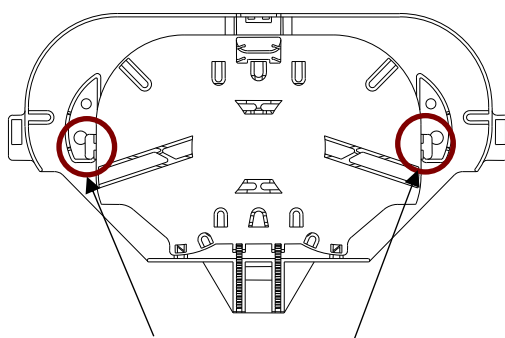


①フックを外しロックを上へスライドさせる

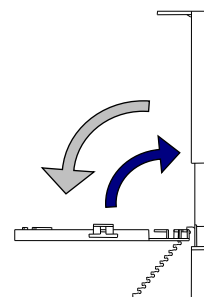
3. 余長収納トレイの開閉

(1) 余長収納トレイの開閉

- ・ 余長収納トレイの開き方はトレイの左右にあるフックを手前に軽く引いてトレイを手前に倒してください。
- ※ 既に固定部に融着保護スリーブ、メカニカスプライス、スプリッター等を収納している場合、左右のフックを同時に強く引くとトレイがたわみ落下する恐れがあります。
- ・ 余長収納トレイの閉じ方はトレイを90度起し左右のフックが「カチッ」と感触があるまで押し込んでください。
- ※ 既に心線を収納している場合、余長収納トレイの心線導入口での心線の挟み込みに注意してください。



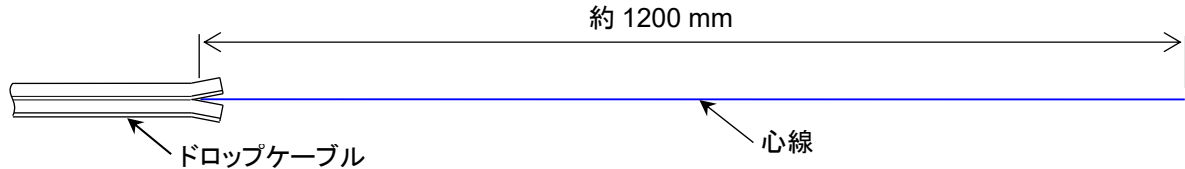
フックを手前に軽く引く



4.ドロップケーブルの処理

(1) 外被剥ぎ取り・外被処理

- ・ドロップケーブルを裂き、ドロップ把持具の際で外被を切除する。
(支持線付きドロップケーブルの場合は支持線と本体を分離し本体のみをクロージャ内に引き込んで下さい。)
- ※ケーブル処理時心線に外傷をあたえないよう注意してください。
- ※スプリッタの取り付け位置、接続部の固定位置によって心線長は変わりますので長さを調整してください。



(2) ドロップケーブルのクロージャへの取り付け

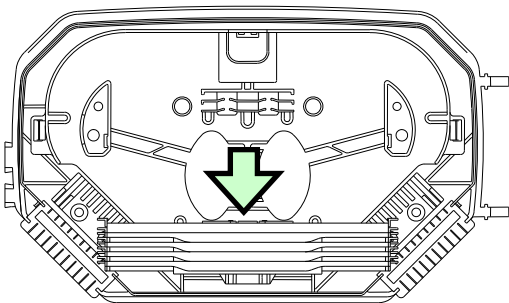
- ① ドロップケーブルを取り付ける際、余長収納トレイを開けた状態で行ってください。
- ② グロメットのスリットをはさみで切ります。
- ③ グロメットのスリットにドロップケーブルを挟み込みスリットの奥まで押し込みます。
- ④ ドロップ把持具の溝にドロップケーブル外被を上から押し込み、ドロップケーブルを固定します。

※取り付け後グロメットの形を整えて下さい。

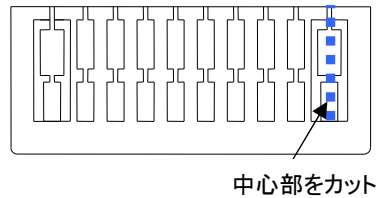
※ドロップケーブルはマイナスインプなど溝の底面に接触するまで押し込んでください。(幅 3mm~4.5mm のドロップケーブルは除く)

※ドロップケーブルを取り付ける時は心線に外傷をあたえないよう注意してください。

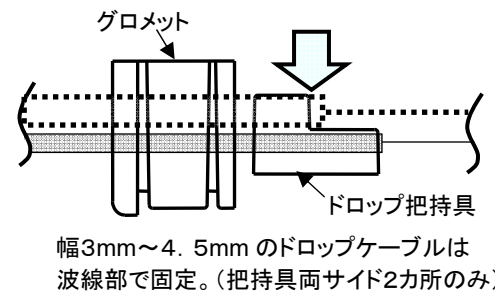
① 余長収納トレイをあける



② 導入部のスリットをはさみでカットする。



③ ドロップケーブルを一番下まで押込む

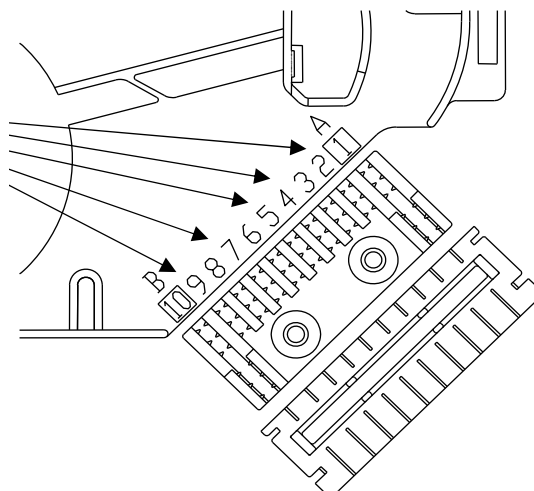


(3) 取り付け位置順序

- ・ドロップケーブルの取り付けは下図の順番で取り付ける。

番号順に導入してください。

A, B部は幅3mm~4.5mmのドロップケーブルを把持します。(2段構造の上段部)



5. 心線の接続収納

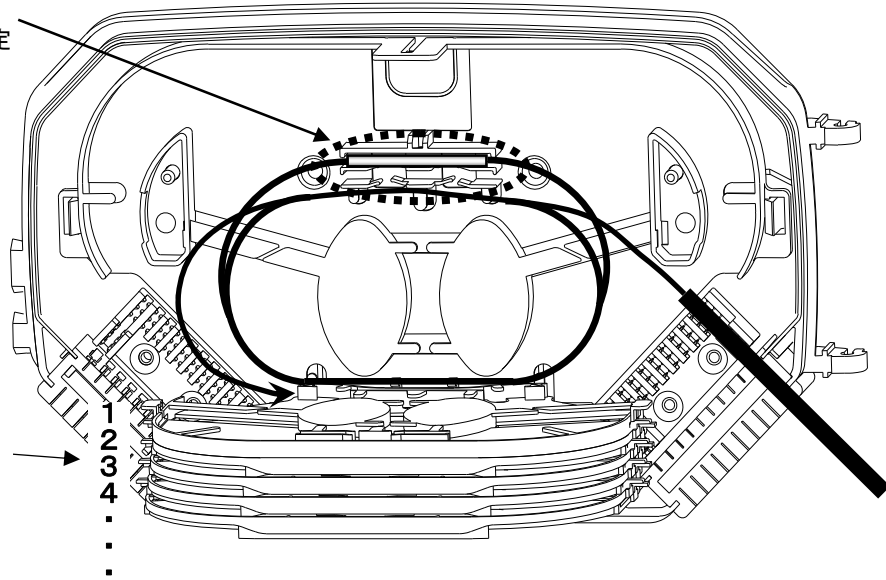
(1) ベーストレイ

- ・ベーストレイで心線の接続部およびスプリッター本体を固定部をする時には波線部に固定します。
- ※心線の曲げ半径30mm 以上を確保してください。
- ※スプリッターは4mm × 4mm 以下の製品を使用してください。

- ・余長収納トレイに配線する場合はベーストレイの外周(下図参照)に心線を通過させて、余長収納トレイへ配線して下さい。
- ※収納トレイはベーストレイに近いトレイから順番に使用してください。

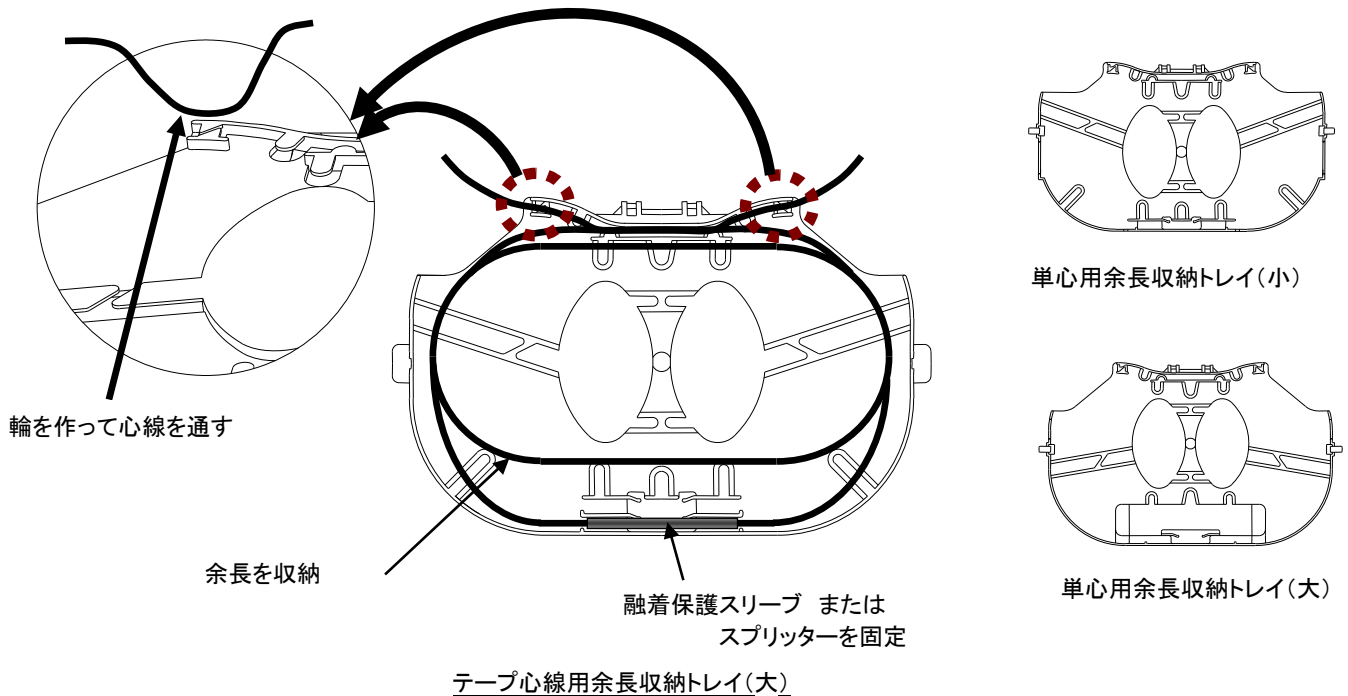
融着保護スリーブ または
スプリッターを固定

番号順にトレイを使用する



(2) 単心用・テープ用余長収納トレイ

- ・ドロップケーブルの心線および、スプリッターの心線を接続し接続部およびスプリッター本体を固定部に固定します。
- ※接続部を固定する際は余長収納トレイを手で支えてください。
- ※心線の曲げ半径30mm 以上を確保してください。
- ※スプリッターは4mm × 4mm 以下の製品を使用してください。
- ※余長収納トレイは、3つの種類があります。各トレイによって融着保護スリーブ固定部の位置と数が違います。(下図参照)



(3) トレイの固定

- ・余長収納トレイを 90 度起し左右のフックを掛けベーストレイに固定します。
- ※余長収納トレイを閉じる際心線の挟み込みに注意してください。

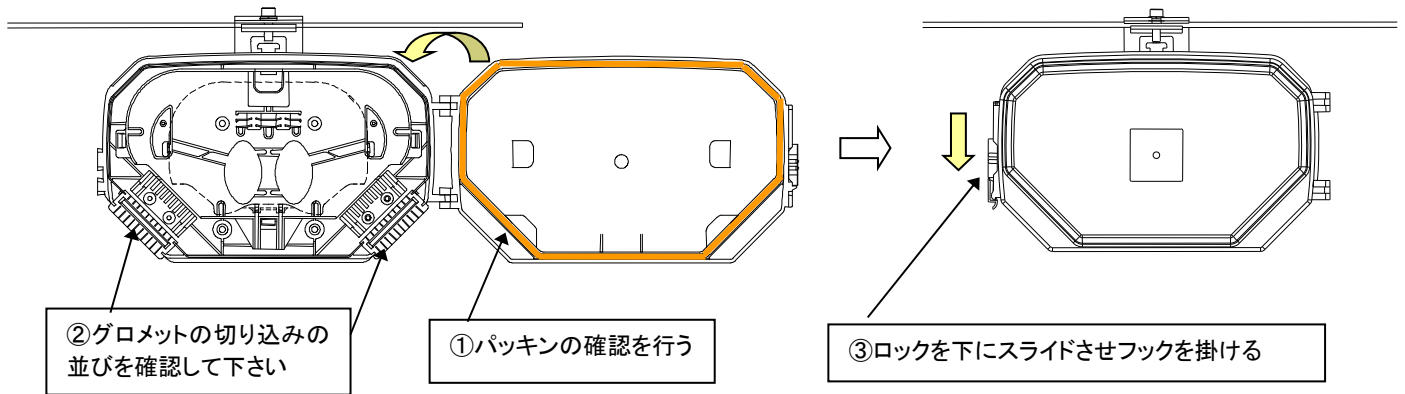
6.カバー閉じ方

(1)確認事項

- (3) ①カバーを閉じる前にパッキンが溝から外れていないことを確認して下さい。
- (4) ②グロメット切り込みの並びを再度確認して下さい。

(2)カバーの閉じ方

- (5) カバーを閉じて、③ロックを「カチッ」と感触があるまで下へスライドさせて かん合して下さい。
- (6) 作業終了時にはカバーが完全にロックされていることを再度確認して下さい。



以上